

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

カラオケから NET 問題へ

三上 純司

はじめに

私はカラオケが好きで定常的な仕事をやめた後は肉体的/精神的健康のためと考え、ほぼ毎日【昼カラオケ】に興じています。勿論、今は“コロナ”禍で自粛中ですが--。

ここでの話題はカラオケそのものではなく、私が歌のソースとして利用している“**YouTube**”の**カラオケ-サイト**で**5年前**(2016年1月)に遭遇し今も対応中のことで、「誤りのある情報発信と垂れ流し」という**NET 社会の典型的/本質的問題**との対峙の好例ではないかと思ひ、皆さまのご意見も頂きたく話題として提供する次第です。

なお、対応/対峙の仕方によっては昨今大きな問題になっている**SNS**での**誹謗/中傷の問題**にも絡むものではないかと考えます。

1. 「YouTube カラオケ-サイト」について

先ず、ことの発端となった標記の**サイト**は、PCではNETで「**YouTube 音楽**」に続き「**楽曲名、歌手名**」を書き込みclickするとヒットします。基本的にはいわゆる「**動画投稿サイト**」で、動画付きで原曲そのもの(プロ本人歌唱)やプロ指導者の歌唱指導、(喉に自慢/自信のある?)アマの人達のカラオケなどが投稿/公開されているサイトで、主流は“**歌謡曲**”です。**開設/上梓**に費

用が必要かどうかは分かりませんが、**チェックなしで誰でも**できるようです。(従って、ここに記したようにどんな**酷い内容のもの**でも公開される--?)。

動画は色々ですが、この話題に関わる『**歌唱講座**』は**自身が提示した【楽譜】**を規範に、**プロ(指導者)が歌唱を指導**するというものです。(余談ですがアマの場合は殆んど自分の歌う姿!)。**Down-load**は無料で自由なので、**楽曲をただで入手できる、新曲を一早く入手できること**などから多くのアクセスがあるようです。

私は**開設/上梓**まではしていませんが多に利用しています。プロはもちろんアマでも結構上手い人がいて勉強/参考になります。また、**【高評価/低評価】欄、【公開コメント】欄 ⇔ 【返信】欄**等が設けられているのが一般的で、**形式上は視聴者と開設者(多くは上梓者)との【対話】**ができるようになっています。

2. ことの発端、経緯、顛末

(2016年1月~8月)

話の信頼性や具体性を高めるために関連する**サイト名や個人名/団体名**等を明示したいところですが、**個人の名誉等に鑑み**それは最小限にとどめます。

ことの発端はもう**5年前**（2016年1月）になります。このサイトで（当時の）新曲“東京迷い猫”（唄：小田純平）を検索していたところ、プロフィールに“**K社歌手**”と銘記した**S氏**^{*1}のサイトの『歌唱レッスン講座』にヒット、試聴したのです。そして、その歌唱に「**とんでもない誤り**」があることに気付いたのがことの「**発端**」です。

^{*1}. この時点でも現時点でも“**K社歌手**”や“日本歌手協会会員”の登録はありません。しかし、15年程前にCD2曲を“**K社**”から発売しているので一応“**プロ**”なのでしょう。私の視聴は“**K社歌手**”に引かれて/釣られてのこと。

この「**とんでもない誤り**」とは、彼の歌唱が彼の提示している**[楽譜]**（この時は原曲CDの付帯楽譜）と大きく違うということです。楽譜には音楽の基本要素である**[音程/音階=メロディ、リズム]**が書かれているわけですが、信じ難いことに彼の歌唱のそれらがそれとは大きく違うというものです。これは聴き手の主観的/恣意的なものが絡む**上手い/下手**の問題ではなく、客観的に分かる**正しいかどうか**の問題で、一般的な音楽の知識/技能があれば容易に分かる程度のもです。（特別な事情がない限り「正しくない」ものが上手いに繋がることはない）と私は思っていますが--）。当然のことながら、彼の歌唱が原歌唱（原曲）と違うことは言うまでもありません。

以下にこの違いを具体的に示します。

- ・**[音程]**；音程が**5度も違う節2ヶ所**、他に音程違い3ヶ所。
- ・**[音階]**；楽譜にはない音を経由する「ズリ上げ/下げ」の音階7ヶ所。これはいわゆる“シャクリ”や”フォール”とは異なる。

・**[リズム]**；リズム**自体の違い3ヶ所**+上記の**[音階]**の問題に起因する**[ビート]**の乱れ7ヶ所。

そこで、私はこれを糺すべく【公開コメント】欄で音程の正/誤を階名で示す等具体的に指摘し、下記の要請をしたのです。

① 彼の歌唱の削除 and/or 「正しい」歌唱に修正後再上梓

② プロフィール欄の“**K社歌手**”記述の修正 and/or 削除。

これに対する彼の応答は次の通りでした。

① **【返信】**欄で「音程の誤りが指摘の**1節**あり修正するが他は**全く問題ない**。修正 and/or 削除の要請は受けない」。さらには私を侮辱する記述もありました。

② “**K社歌手**”に関する要請も全く無視。その後、私はさらに【公開コメント】欄で指摘を続けましたが、彼はそれに対して**【返信】**なしとその**非公開化**（私は閲覧可能ですが）を行ったのです。

さらに彼宛てのTel/FAXでのコメントも試みましたが、初回の着信音だけで**音信不能**、これは現時点でも続いています。要するに私からの**通信の遮断**、私との**【対話】**の拒否という挙に出たわけです。

結局、この『歌唱講座』は“**K社歌手**”のまま、音程については、**1節は修正**しましたがもう**1節は5度違い**のままで今現在（**2021年**）も公開されています。これがこの話題の発端、経緯、「**顛末**」です。

3. その後の対応と結果

（2016年9月～2018年末）

この後も彼はこの『歌唱講座』を継続/拡大するばかりでなく、新たに『**歌を上手く唄うための10ヶ条**』なる『講座』をも開設

上梓したのです。しかし、これらにもそれぞれ下記のような大きな**基本的な問題**があったのです。

・前者；私の視聴した彼の歌唱全て（約 30 曲）に既述したような歌唱の問題、彼の提示した楽譜*2 に [速度表示] やその他 [必須の記号]（例：バウンス記号）がないというようなこと。

*2 この時点では主要部は音楽雑誌から転載、一部書き換えたもの。

・後者；主に音楽知識/技能に関する教科書的な講義ですが、[音楽の三要素] や楽譜に関する必須項目*3 の講義がない、音楽用語の説明に初歩的な「誤り」がある（[子音] の説明などは音楽知識以前のものも！）等そもそも『講座』の体をなしていない。

*3 [絶対音高]、[絶対速度]、[音部記号]、[音律と音程/音階]、[音階と調] 等

これらに対して私は非公開とはいえ彼には届くものと考え、【公開コメント】で都度指摘を続けていたのですが、全くの無視でした。「なんとかしなければ」との「想い」からとった新たな対応/行動は下記の通りです。

1) 知人の FAX から指摘の送信

既述の通り私の FAX は着信拒否の状態でしたので、知人の機器を借用、これまで都度指摘してきたことを全てコピーし FAX したのです（なお、コンビニなどからの FAX もトライしましたが、着信せず、着信拒否設定のようでした）。

結果ですが、残念ながら全くの応答なしというものでした。

2) 各種関連団体への直訴/問題提起

ここで思いついたのが、このサイトや S 氏に関連ありと思われる下記の各種団体へ

の直訴/問題提起でした。通信手段は主に E-mail。結果/応答を合わせ下記に示します。

① “YouTube 公式サイト”：応答なし。そもそもこのような事象には対応していない？

② 「日本歌手協会」：S 氏は会員ではないので関与はできないとの応答。

③ “JASRAC”（日本音楽著作権協会）：楽譜と異なる歌唱は“著作権”の侵害＝「改変」に当たるが、当事者からの提訴が必要、との返答。（なお、S 氏は JASRAC 会員）。

④ 「全国カラオケ指導協会」：S 氏は会員ではないので関与はできないとの応答。

⑤ “K 社” -- 2 回：私の指摘を基に内容の修正/削除を要請するが、強制までは出来ない、との応答でしたが、それなりに行動してくれました。

結局のところ S 氏のこれらの『講座』には全く何の変化も見られずプロフィール欄の“K 社歌手”の修正すらなかったのです。結果として 2018 年末までに『歌唱講座』は約 50 曲程度、後者の『知識/技能講座』は全て=10 講座が上梓されました。まさに「誤りのある情報の発信と垂れ流し」でした。

4. 最終的な対応/行動と現状

（2020 年以降）

以上のように言わば「埒のあかない状態」、「八方塞がりの状態」に陥ったわけですが、私自身の事情も重なり 2019 年末までは静観の状況でした。

しかし、この間の彼の『歌唱講座』には、これまで指摘してきた問題に加え、さらに提示楽譜に [プレス位置] の間違いや拍子記号がない、初歩的な発音の間違い*4 等また新たな基本的な問題も見られたのです。

*4 例；「ーを誇ろうー」のような歌詞は

「誇ろおー」と発音/歌唱するのが正しいのですが「誇ろうー」--。

「なんとかしなくては」との思いはますます強くなる中、最終的に思いついたのは、***彼が主宰している“カラオケ喫茶”にその気付けで彼宛てに書類送付する**ということでした。FAX はなく Tel.での対応はしないであろうと考えこの手段としたわけです。書類の内容は、それまでの経緯とすでに指摘していた問題点と新たな問題点等を具体的に詳細に記述/指摘し、それらの修正 and/or 削除を要請したもので、全 20 ページに及ぶものでした。

結果ですが、残念ながらまたも彼からの応答は全くありませんでした。書類には私の Mail address は銘記しておいたのですが--。結局のところ、「埒のあかない」まま現在 (2021 年) に至っているということです。

その後も彼の『歌唱講座』の上梓は続き、彼によれば、2021 年初頭で総アクセス数は **1000 万回**を超えたとのこと！“K 社歌手”に釣られてのことでしょうが、大勢のアマの人たちがこのような歌唱や音楽知識/技能を勉強し鵜呑みにしていると思おうとゾッとします。

趣味の世界の問題なのになぜそこまで「闘争？」を、と思われる方が多いかも知れませんが、これは以下に記すような私の音楽との関わりに深く関係しています。すなわち、合唱歴 50 年、「第九」合唱出場 4 回、フルート歴 35 年の私ですが、この間、多くの専門家の指導を受け、“楽曲の本来持っている素晴らしい情感^{*5}は、「正しい」演奏 (歌唱) により醸し出される”ということを知りそれを実感/実体験してきていることと深く関係しています。必然的に「正しい

い」には厳しいし敏感です。

^{*5} いわゆる「感情」、私は敢えて「情感」と表現しています。

カラオケも立派な音楽です！カラオケ歴も 50 年以上の私にはこの正しい歌唱から醸し出される音楽の素晴らしさ/楽しさを多くの人にも味わってもらいたいのです。従って、S 氏のような正しいとは程遠い「誤り」や「問題」のある歌唱や音楽知識/技能を広める、それもプロの名の下で『講座』と銘打ちで、そして NET で拡散させるようなことは許せないのです。「音楽をダメにしないで！」と言いたいのです。

なお、このような「誤り」や「問題」はこれまでの記述から主観的/恣意的なものではなく客観的なものと分かってもらえると思いますが、音楽にあまり通じていない人には分かってもらえないかも知れません。そういう意味でも S “プロ”は罪深い！と言わざるを得ません。

5. 問題提起

以上が NET 上で明らかな誤りのある歌唱に遭遇しそれに対峙してきた私の実体験の全てですが、気がつけば 5 年余り--、**なににも変化させられずにいる**ことに愕然としています。

何故このようなことが--？と自問自答しながら問題提起したいと思います。要因としては下記が挙げられると考えます。

(1) 発信者個人の問題＝個人の資質の問題

(2) サイトの管理/運営システムの問題

(1) は、S “プロ”の音楽的能力と彼の人間性の問題です。彼の音楽的能力が高ければそもそも「誤り」が分かり「誤り」は発信されない、他人の指摘に耳を傾けるだけの

謙虚な人間性があれば修正/削除もできるはずなのです。発信者の資質が良ければそもそもこのような問題は起こらないということです。

トランプ前アメリカ大統領の”fake”ニュース発信を思い起こしますが、”fake”には意図的な感がありますが、S 氏の場合は単に資質の低さが絡む”false”が適当ではないかと思います。

(2) は、下記のようなシステム上の問題で NET 問題全体に共通するものであると思います。

- ・サイトは誰もがチェックなしで開設/上梓でき、どんな情報でも、たとえ「誤り」があっても発信＝投稿/公開＝上梓できるシステム。

- ・誤りや問題点の指摘があっても、発信者はそれを無視/遮断できるし修正/削除も意のままにできるシステム。これには (1) が深く絡むでしょうが--。

- ・サイトの管理者/運営者が不明確であること。今回の“YouTube 公式サイト”の応答なしは、その代表的なもので理解に苦しみます。とは言え、法的な規制や行政の介入は好ましいことではなく許されることでもないでしょう。ただ、今回の私の件では、行政とは関係ないけれど発信者と少しでも**関係ある個人/団体の関与**はあってもいいのではないかと思いました。

“K 社”は誠意ある対応をしてくれましたが、歌謡曲、歌謡界の健全なる発展をモットーに活動しているプロ歌手の団体である“日本歌手協会”の対応にはガッカリしました。また、原曲の発売会社や歌唱者、プロのカラオケ指導者団体等の**無関心、無為/無策**は気になりました。“プロ”が「講座」と

銘打ち「誤り」や「問題」のある歌唱や音楽知識/技能を**垂れ流す**“などということは少しでも関わりのある個人/団体は看過すべきではないと思うのです。

以上のように何も解決しないまま勝手に「**問題提起**」をしました。現状を打破する方策についてご教示頂ければ幸いです。

おわりに

カラオケという趣味の世界で、「**明らかな誤り**」のある歌唱に遭遇したのを発端として体験してきた今回のことは、結局のところ、**どんな情報でも発信され、それに「明らかな誤り」があっても糺す術が殆んどない、すなわち「誤りのある情報の発信と垂れ流し」が普段に起こるといふ身近な NET 社会の問題**そのものの典型的な体験であろうとの思いに至りました。

このような問題にどう対応/対峙すればいいのか皆さまのご意見を頂ければと思ひ話題として提供した次第です。

なお、ここでの私の「**闘争**」では今後、Twitter や Facebook 等のいわゆる SNS での指摘や問題提起なども視野に入れていきます。勿論、SNS の世界で昨今問題になっている単なる「**誹謗/中傷**」にはならないように注意はしますが、趣味の世界なのでそこまでは--と、躊躇しているというのが本音です。このことを含め皆さまのご意見やお知恵を頂ければ幸いです。

*付録：カラオケについて

- ・我々の現役時代、二次会のカラオケの場となっていた“**スナック**”の多くが今は流行らないということで“**カラオケ喫茶**”、いわゆる【**昼カラオケ**】の場を提供していま

す。一般的には 12 時～18 時、飲み物とちよつとしたスナック菓子がつきカラオケは歌い放題で 1,000 円+α が相場です。客は殆んど高齢者、年金生活者ですがここでも女性が優勢。カラオケに興味をお持ちの方、喉に自慢/自信のある方はぜひ覗いてみたらいかがでしょうか。

ただ、今は”コロナ”禍、ほとんどのお店は休店中、中には閉店してしまったところもあるのは残念ですが--。

・最後に私のカラオケに関係することを少々書かせてもらいます。

本文に記しましたように、私は音楽について相当勉強してきています。カラオケ歴は 50 年以上、今現在は一応“カラオケの先生”です。この経験と前述の実体験を活かし「正しく」を基調に「楽しく」をモットーに『カラオケをもっと“上手く”歌えるようになり、より“楽しい”を実感するために、チョット努力してみませんか!』との副題をつけた小冊子;『カラオケ読本』を作成し教材にしています(本文/基礎知識編/基本技能編、A4 判 12/11/7、全 30 ページ)。カラオケにご興味をお持ちの方、ご連絡頂ければ E-Mail 送信致します。

以上

なお、私の E-mail は下記の通りです。

mikamij@sky.megaegg.ne.jp

自己紹介

1970.10 北海道大学工学研究科博士課程了
工学博士、専攻：反応工学、化学工学、触媒工学

1970.10 三井東圧化学(株) (現、三井化学(株))
入社、大阪工場→下関工場 (研究部署) →
1993.12 東洋シーシーアイ(株)* に出向、
取締役下関工場長

*米国 United Catalysts Inc. と三井東圧
化学の合弁会社：合成ガス製造触媒、
環境触媒、各種カスタム触媒の製造/開
発/販売

2001.4 本社常務取締役、技術部長

2001.7 ズードケミー触媒(株)*、代表取締役
専務、三井化学側の代表という形。

*「日産ズードヘミー触媒(株)」と 2001.7
に合併。資本構成：ドイツ SCAG/日産
化学/三井化学=51/32/17

●業界業務

2002.4～2006.3 「使用済触媒資源化協会」
副会長

2003.10 「触媒工業協会」欧州ミッション
団長

2005.3 現役引退

●学生時代の専攻は上記の通り触媒が関係
する反応工学であり、会社でも一貫して
”反応”と”触媒”に関係。プロセス、触
媒は得意分野、専門分野です。

プロセスではとくに流動層(反応)に長期
間関わってきたことから、ハイテクシリ
ーズ「**流動層概論**」(朝倉書店)の一節を担当、
化学工学会関係で数回講演しています。
触媒の製造、開発には、1993 年から直接携
わってきたのでそれらの実務にも明るいと
思っています。

なお、2010 年「ノーベル化学賞」受賞、
鈴木彰先生は恩師の一人であります。